

新たな交通システム導入に向けた検討について（中間報告）

江東区の地域公共交通は都営バスを基軸としており、区内で交通空白地域は一部点在するものの、まとまった地域としては存在しない。

一方、令和5年度に実施した区民アンケートでは、高齢者や子育て世帯等の移動支援が必要な区民（交通弱者）から、外出する際の交通手段に不便を感じる理由として、「バス停が遠い・便数が少ない」などが上位に挙がっている。

そのため、令和6年度は、交通弱者を対象とした都営バス路線網を補完する「新たな交通システム導入」について検討を行った。

1 現状と課題の整理

本検討においては、「令和5年度区民アンケート調査結果」、「携帯電話を活用した移動データ（ビッグデータ）」、「パーソントリップ調査」等の各種調査データを用いて、区内の地域交通の現状、移動支援が必要な区民の状況、ビッグデータを活用した区民等の移動状況について分析し、地域公共交通の課題を整理した。

2 導入地域の検討

導入効果の高い地域を選定するため、区内を13地区に分け、地域公共交通に関する課題に即した評価指標を設定して地域評価を行い、導入効果の高い上位3地域について、地域特性の整理を行った。

3 運行手法の検討

23区における実証運行等の事例をもとに、各種運行手法の適用特性やメリット・デメリット、経費等について整理し、導入効果の高い地域の特性に応じた新たな交通システムの検討を行った。

4 今後のスケジュール等

(1) 新たな交通システム（実証運行・本格運行）の導入について、地域公共交通会議（区、区民、交通事業者、警察、道路管理者、学識経験者等）に諮り、まずは実証運行開始に向けた具体的な検討を進める。

① 令和7年度

地域公共交通会議での合意形成を図り、新たな交通システムの導入地域と車両を選定し、計画を策定

② 令和8年度

運行事業者を選定し、実証運行に向けた準備

③ 令和9年度

実証運行の開始

(2) その他検討事項

① 実証運行の効果検証を行い、効果を見極めたうえで、本格運行への移行や運行地域の拡大等を検討

② 環境負荷の少ない車両（EV・グリーンスローモビリティなど）の導入について検討

③ 最新技術（自動運転など）の導入について検討